

〔事物紀原九酒醴飲食〕酒

酒經曰空桑穢飯醞以稷麥以成醇醪此酒之始也呂氏春秋曰儀狄作酒醪變五味戰國策曰狄儀帝女造酒進之於禹甘之遂疎狄儀古史考亦曰狄儀造酒博物志曰杜康造酒魏武帝詩曰何以解我憂惟有杜康酒玉篇曰酒杜康所作陶潛集述酒詩序曰狄儀造酒杜康潤色之而黃帝內傳王母會帝於嵩山飲帝以護神養氣金液流暉之酒又有延洪壽光之酒然黃帝時已有其物但不知杜康何世人而古今多言其始造酒也一曰少康作梳酒

〔日本釋名下飲食〕酒 さくるるなり風寒邪氣をさくるるなり

〔東雅飲食十二酒サケ〕素戔嗚神大蛇を斬り給ひしに八醞酒を造らしめられ又天孫の御子生み給

ひし時に神吾田鹿葦津姬天甜酒造られしなどいふ事舊事紀古事記日本紀等に見えれば其因り來る所既に久しき事にて其始をも知るべからず萬葉集抄に酒をサケともいひサカとも

いふはサカユといふ詞也酒宴は皆人のさかへ樂しむ故なり又サカともいふ同じ詞也酒をサ

れといふなり即ちまた神の酒をミワといふ事は土佐國にある三輪川の水を用ひて大神のた

めに酒を釀したりけるに殊にめでたかりければかく云ひし也神酒とかきてミワと訓するは

此故也としるせり又酒をキともいふが如きは其義詳ならず古事記に御酒二字讀てミキとい

キといひ白酒二字シロキと讀むが如きは酒をげキと云ひし也日本紀釋には酒をミキといひ事を

釋して酒也といひオホミキと讀むが如きは酒を御酒也と云ひしが如きは酒をミキといひ事を

古の時に此也御酒をミキといふ詞を相通じていひし如きも共これ飲食の物也したがこれ

を呼ぶ所の義は今はたけるのべからしむ或説に食なるケと云ひしは消也唯その消しぬるをいふなり

むまた或説にミキと酒はミは御也キはイキ也人を醉はしめてはイキホヒの出る者也と云へり

〔倭訓彙編十〕さけ 酒をいふは榮えの義かえ反け也吞は笑さかえ樂むの義也といへり貝原